作成日 2011年06月08日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	テンポYM真菌計数キット
会社名	シスメックス･ビオメリュー株式会社
住所	〒141-0032　東京都品川区大崎1-2-2 大崎セントラルタワー8F
担当部門	薬事部
電話番号	03-6834-2666
緊急時の電話番号	03-6834-2718
FAX番号	03-6834-2667
推奨用途及び使用上の制限	試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理的化学的危険性	分類対象外か分類できない。
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分5 生殖細胞変異原性 区分1B 発がん性　区分1B 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性･全身毒性(反復曝露)　区分1(骨髄、神経系、消化器) 特定標的臓器毒性･全身毒性(反復曝露)区分2(心臓) 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 区分外 水生環境慢性有害性 区分外

GHSラベル要素

シンボル

注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害のおそれ 遺伝性疾患のおそれ 発がんのおそれ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 長期又は反復曝露による骨髄、消化器、神経系の障害 長期又は反復曝露による心臓の障害

注意書き

安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 適切な個人用保護具を使用すること。 粉じん、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

救急措置	飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 曝露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
保管	施錠して保管すること。
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3　組成、成分情報

単一製品・混合物の区別　混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
クロラムフェニコール (2.2−ジクロロ−N−[2−ヒドロキシ−1−(ヒドロキシメチル)−2−(4−ニトロフェニル)エチル]アセトアミド)	≧0.1%	$C_{11}H_{12}Cl_2N_2O_5$	(9)−9999	4−(7)−991	56−75−7
硫酸アンモニウム	1−5%	$(NH_4)_2SO_4$	1−400		7783−20−2
その他(非有害性成分)	−−−	特定できない	不明		−−−

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　情報なし

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)　第2種指定化学物質(法第2条第3項、施行令第2条別表第2), クロラムフェニコール(政令番号:2−27)(≧0.1%)

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	化学物質が除去されるまで、多量の水と石鹸で洗うこと。 医師の診断、手当てを受けること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8．曝露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。
封じ込め及び浄化の方法･機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	『8．曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気･全体換気	『8．曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 空気中の濃度を曝露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避	データなし

保管

技術的対策	データなし
混触禁止物質	データなし
保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	データなし

8. 曝露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度（曝露限界値、生物学的曝露指標）	
		日本産衛学会（2010年版）	ACGIH（2010年版）
クロラムフェニコール	未設定	未設定	未設定

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
曝露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態	固体
	形状	結晶状粉末
	色	白色－淡黄色
臭い		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		150.5－151.5℃
沸点、初留点及び沸騰範囲		昇華
引火点		データなし
燃焼又は爆発範囲		データなし
蒸気圧		0.2E-9 Pa/25℃
蒸気密度（空気＝1）		データなし
比重（密度）		1.49g/cm^3（結晶）
溶解度		水: 2500mg/L
n-オクタノール／水分配係数		logPow=1.14/25℃
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
体積低効率（導電率）		データなし

10 安定性及び反応性

安定性		法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		データなし
避けるべき条件		データなし
混触危険物質		データなし
危険有害な分解生成物		データなし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットを用いた経口投与試験のLD50 2,500mg/kg (RTECS (2006))からGHS:区分5とした。
	経皮	データなし
	吸入（気体）	製品の形状がGHS定義による個体のため分類対象外に該当する。
	吸入（蒸気）	データなし
	吸入（粉じん）	データなし
	吸入（ミスト）	データなし
皮膚腐食性・刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性		データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性		データなし
皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		IARC 50(1990), IARC 10（1976）の記述から、経世代変異原性試験（優勢致死試験）で陰性、生殖細胞 *in vivo* 変異原性試験（染色体異常試験）で陽性、体細胞 *in vivo* 変異原性試験（染色体異常試験）で陽性、生殖細胞*in vivo* 遺伝毒性試験なし、であることからGHS:区分1B「遺伝性疾患のおそれ」に該当する。
発がん性		IARC:2A: 人に対して恐らく発がん性がある(IARC) NTP (2005)で、IARC (1990)でGroup 2Aに分類されていることから、「区分1B」とした。
生殖毒性		IARC 10 (1976)の記述から、ラットの催奇形性試験において、親動物での一般毒性に関する記述はないが、仔に水頭症、口蓋裂を含む奇形がみられているため、GHS:区分2に該当する。
特定標的臓器毒性（単回曝露）		データなし

特定標的臓器毒性（反復曝露）
ヒトについては、「クロラムフェニコールを処方後再生不良性貧血を発症し1年後に急性骨髄芽球白血病で死亡した5歳児の報告」、「12gのクロラムフェニコールを投与され4ヶ月後に骨髄抑制を起こした63歳男性例」(IARC 10 (1976))、「長期間投与後の他の有害作用には皮膚発疹、消化管不良及び神経障害があげられる」(IARC 50 (1990))、「網膜における両側性のガングリオン細胞の消失および視神経線維の委縮が生じる」、「心筋障害をともなう心血管虚脱と左心室機能の低下が超音波心臓検査で判明した」(HSDB (2005))等の記述があることから、骨髄、神経系、消化器、心臓が標的臓器と考えられた。また、ヒトにおける心臓への影響を記載した評価書はPriority 2に属するため、この臓器に対する分類は区分2とした。以上より、GHS:区分1(骨髄、神経系、消化器)、区分2(心臓)に該当する。

吸引性呼吸器有害性
データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性
データ不足のため分類できない。

水生環境慢性有害性
データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装
容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則	海上規制情報	該当しない
	UN No.	該当しない
	航空規制情報	該当しない
国内規制	陸上規制情報	該当しない
	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）
第2種指定化学物質（法第2条第3項、施行令第2条別表第2）（政令番号:2-27）

16. その他の情報

連絡先
シスメックス・ビオメリュー株式会社

参考文献
NITE GHS分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI
RTECS(2006-2009)
bioMerieux sa 製品MSDS （2010/09/09）

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。